

会 議 録

会 議 名	令和7年度第1回東松山市幼児教育振興懇談会			
開 催 日 時	令和7年4月25日（金）	開 会	午後3時00分	
		閉 会	午後4時15分	
開 催 場 所	東松山市総合会館3階 302会議室			
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 （1）令和7年度事業計画（案）及びテーマ（案） （2）その他 4 閉会			
公開・非公開の別	公開	傍 聴 者 数	1人	
非公開の理由 （非公開の場合）				
参加者出欠状況	巢立 佳宏	欠席	中村 昭司	出席
	小佐野 真紀	出席	竹内 千鶴子	出席
	峯 岩男	出席	西條 宏実	出席
	二口 法子	出席	狐塚 汐里	出席
	内田 宏美	出席		
事 務 局	教育委員会教育長 吉澤 勲		こども家庭部長 神庭 法子	
	こども家庭部次長 加藤 勝子		保育課 課長 阿部 康裕	
	保育課 副課長 福田 潤		学校教育課 副主幹 成田 恭平	

	顛 末
1 開 会	事務局
2 あいさつ	東松山市教育委員会教育長 吉澤 勲
	幼児教育振興懇談会参加者、事務局、自己紹介 座長 峯岩男氏 会議録署名人に小佐野真紀氏、竹内千鶴子氏を指名
3 議 題	座 長 議題（１）の令和７年度事業計画（案）及びテーマ（案）について事務局から説明をお願いします。 事務局 （説明） 座 長 それでは皆様にお諮りいたします。令和７年度事業計画（案）及びテーマ（案）について、前回の会議で案を提案させていただき、その際にはよろしいであろうとのご意見を承っておりますが、改めて今年度の事業として提案させていただきたいと思います。何かご意見、ご質問などありますでしょうか。 全 員 （特になし） 前回、色々と協議をいただいた経緯もありますので、案のとおりでよろしいでしょうか。 全 員 （異議なし） 座 長 では、令和７年度事業計画（案）及びテーマ（案）については、御承認いただいたということで、正式に（案）を消していただき、このような形で進めさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。 続いて議題（２）その他ですが、事務局から何かありますか。 事務局 今回、初めてご参加の方もいらっしゃいますので、本日お配りしました資料の「スタートカリキュラム」、「エマージェント・カリキュラム」、「幼児教育研修会アンケート結果資料」、こちらの３つの資料につきまして、峯先生からお話をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

	座 長 では、これらの資料について説明したいと思います。「スタートカリキュラム」は昨年度の事業の中で配付された資料ですが、新任の西條先生、内田先生におかれましては、お時間のある時にご確認いただければと思います。ここ２年ほど、國學院大學の吉永安里先生をお招きして、幼児教育と小学校教育の接続について、こうあると良いとの内容で、連続で講義をいただきました。アンケートの結果、「是非また安里先生のお話を聴きたい」という回答が非常に多くありました。聴きやすく、具体的で、非常に分かりやすかったとの声が多く、２年続けて講義をいただいたことで、教育・保育現場の先生方の理解もより深まったと思います。その結果が、昨年度の第３回幼児教育振興懇談会の資料にアンケート結果としてまとめてありますが、新任の先生方のために、本日の資料として再度お配りしました。引き続いての方は既にお手元にある資料ですが、改めて開いてご覧になってみるのも良いかと思います。 この２年間で、小学校の先生の参加率が低いことを課題と捉え、校長先生に参加しやすい時期をお聞きして、昨年は８月８日に開催したわけですが、出来るだけ先生の参加率を上げたいと思い実施しました。今年度も８月１日としましたが、８月の中旬近くより初旬の方が参加しやすいと、二口先生や前任の眞秀先生のご意見を基に、この日程にさせていただいた経緯がありますので、西條先生、二口先生におかれましては校長会などの機会に、成田先生におかれましては教育委員会内で、よりプッシュしていただき、多くの先生方にご参加をいただきたいと思います。この「スタートカリキュラム」の中身について、どうすれば本当に素晴らしい接続に繋がっていくのかということまで、ようやく来ているという状況ですので、
--	--

	「スタートカリキュラムも」大事にしながら、一歩進んで、この資料の「エマージェント・カリキュラム」に入っているのも良いのではないかと思います、本日用意しました。 「スタートカリキュラム」、架け橋期のプログラムが求めることとはどういうことなのだろうと、幼児教育と小学校教育が共通の視点を持って、教育課程や指導計画を具現化して作成することが大事で、ただ話しているだけではなく、来年度くらいの内には実現できれば良いなと思っています。 この中に、幼児教育・保育施設と小学校教育の架け橋期とありますが、幼児教育と小学校教育の共通している部分をまず確認しましょうということで、「育みたい資質と能力」が幼児教育の中に3つあり、「その3つを通して幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が10個あります。 そして小学校教育から高等学校教育まで、主体的、対話的で深い学びに繋がっていくようにしていきたいということ、幼児教育と小学校教育の共通点を確認しながら、新しいカリキュラムの策定に入っていっていただけると良いと思います。 「エマージェント・カリキュラム」とは、どういうことなのだろうかということですが、簡単に言いますと、「エマージェント」とは、こども達が色々なことに興味・関心を持つということです。各教科の授業に関心を持つよう、今後は指導計画のあり方、教師の指導の方法を見直していく必要があるのかもしれませんが。そういったことを互いに理解し、共通のテーマとして取り組んでいけたらと思います、この資料をご紹介させていただきました。 指導計画があっても、そのとおりにいかないかもしれない、こどもの興味・関心が一体どこにあるのか、授業や幼児教育の中の遊びを通して、こど
--	---

	も達の心や環境に寄り添いながら作り上げていく。それは教師だけではなく、場合によっては子どもと一緒に作り上げていくことも必要で、そうしないと、こどもの興味・関心が絵空事になってしまうのです。要は、主体が子どもにあるということです。子どもを中心としてカリキュラムを作り出していくことが大事で、それを「エマージェント・カリキュラム」と呼ぶこととなっているようです。 最後に、遊びや学びは、子どもと保育者・教師の共同作業であるとあります。ややもすると、以前は、教師が主体となって指導計画を作ってきましたが、子どもと一緒に作り出していくということを考えると、子どもを中心に据えてカリキュラムを作り上げることで、教育とは教え込むことではなく、こどもの興味・関心を引き出すことに意義があるというのが、この「エマージェント・カリキュラム」に求められている部分と言えます。 この資料は、今年2月に我々幼稚園の1年間の研究のおさらいとして、東京家政大学の佐藤康富先生をお招きしてお話を伺った時のものです。 それを受けて、今年のテーマを幼児教育と小学校教育の違いを理解し合って、その上で子ども達がスムーズな就学に向かっていけるような研修をされたらどうかと伺いまして、本日の配付に至っていますので、参考にさせていただきたいと思います。 それから、アンケート結果を見ますと、参加された小学校の先生方から、非常に好評でした。一つ一つ、目を通していただければと思いますが、内容への納得感が、現場の先生方から回答として数多く出ていますので、これから参加される先生も含めて、子どもを中心に据えた小学校教育となっていくようにする責任が、我々にはあるように思います。
--	---

	特にご質問がなければ、お話を進めさせていただきますが、現在、佐藤康富先生と色々と相談をしています。今夏の研修会をどのようにしていくのが良いかという事で、違いを互いに理解し合うことに当たり、ただ講義を聴くだけではなく、一歩進んで保育園・幼稚園・小学校の先生方が一定のテーマに沿って、話し合いをしていただく時間を持っていたかかないと、共通認識に繋がっていかないのではないかとも思いますので、これから内容を協議して、研修会を迎えられればと思います。先生方にお伺いしますが、小学校の教育課程や指導計画は、毎年、学校ごとに新しく作成するのでしょうか。それとも、反省点等を盛り込み、修正しながら進めているのでしょうか。
西條氏	基本的には、教科書に沿った指導計画で進めており、年度末に各教科部会で検討し、改善すべき点を翌年度に反映させています。
座長	全く前年どおりというわけにはいかないでしょうから、こどもの成長の様子に合わせて改善しながら進めているのですね。保育園はどうでしょうか。
内田氏	保育園ではクラスごと、こどもに合わせて、特に小さい年齢のこどもは個人目標も立てているので、年度ごとに修正しています。
狐塚氏	週案、月案、年案、個人記録をそれぞれ毎年修正しながら作り替えています。
座長	一歩進むということは、このようなことをグループで出し合って、そして何が共通していて、何を大切にしていいたら、こどもたちが接続期をスムーズに就学していけるのかということの意見を出し合うということが、意義のあることだと思います。指導計画が、そのまま計画どおりスムーズには進まないものです。それぞれ成長の過程も異なるので、内田先生が仰ったように、一人一人に合

	った接し方も必要であるし、言葉掛けもその子の成長に繋がるような言葉を選ばなければいけないということにもなってきます。 最近のこども達の様子はどうでしょうか。 私の園でも新学期、まだオムツで登園してくるこどもも多く見受けられます。3歳になっても、それが普通であるという認識なのでしょうか。 狐塚氏 保育園では、園でやってもらうものだという認識で、入園説明会で保護者から、離乳食はいつから食べさせてくれるのか、どのような形状から始まるのか、全て用意してもらえるのですよね、との質問を受けたり、風邪を引いても、仕事が忙しく迎えに行けないので、自分の子だけ別の場所で保育してほしいなどといった話もあり、どうしたらいいのだろう、という思いはあります。 座 長 最近、お母さんの役割が曖昧になってきていると感じています。昔のお母さんは、家でやるべきことはしっかりとやった上で、お願いすべきことはお願いする、二人三脚と言いますか、お互いに手を携えて幼児教育・保育をしてきたと思いますが、どうも最近は保育園に任せきりのケースが非常に多い。幼稚園においても、満3歳児から入園できるようになったこともあり、同様の姿が見受けられます。 政府が考えているような、安心して預けてくださいという考え方は、悲しい、嘆かわしいと言わざるを得ません。 本当の子育てとはどういうことなのかということを良く認識した上で、お願いすべきことはお願いする、その代わり自分の責任を果たすといった関係性が崩れています。 そして今、お父さんの役割とお母さんの役割が曖昧になっていて、個人としては問題ではないかと思っています。
--	---

	男性の育児休暇取得促進が進み、育児、家事の分担など、夫婦で協力し合い、お互いの役割を認識し合っていれば良いが、結局、「夫がやってくれない」といったことが現実には起きている。そのような環境のこども達を小学校に送り出すということを小学校の先生方も理解していただかないと、スムーズな就学に繋がっていかない。理想と現実の違いを見極めていく必要があると思います。 もちろん、我々も責任を持って育てていくのですが、このことをあまりにも軽視しすぎた結果が、この現実を招いてしまっていると感じています。そう思いませんか。 狐塚氏 非常に思います。私自身、夫が県外で事業をしていて不在の中、フルタイムで働きながら一人で子育てをしています。離乳食が作れない、できないと相談してくる保護者がいます。私達保育園はお母さんとパートナーなので、全部任せるのではなく、一緒に子育てをしましょうと話をするのですが、保護者もリフレッシュタイムが欲しいなど、なかなかこちらの意図が伝わらないです。 座 長 これはある街の例ですが、首長が医療的ケアを必要とするこどものために、保育園に看護師を配置するなど手を尽くしすぎた結果、こどもが発熱しても看護師がいるからと迎えに来ない保護者が増えてきたとのこと。ただ配置すれば良いのではなく、首長も現場をしっかりと見定めないと、こういう事態を招きます。 私の園でも、あるクラスでは18人中、オムツ着用が11人。これが現実です。トレパン型オムツの時期になると、家庭でトイレトレーニングをしないということです。 このようなことから、手立てを考えていくにも、現実を良く見て、こういった事態にならないよう配慮しなければならないと思います。
--	--

	保護者、保育園、幼稚園、学校の役割を改めて考える時期に来ていると言わざるを得ません。 皆様から何かありますか。 吉澤教育長 8月の研修会時の話し合いのイメージですが、幼児教育と小学校教育の接続の内容について、幼児期の教育は、遊びを通した学びとして、就学までに育ってほしい姿が指針にあり、ある程度の「ねらい」はあるが、あくまでもこどもたちの興味・関心を引き出す環境を先生方が作り、それに基づいて幼児教育・保育をしている。ですから、目指すところはあるけれど、場合によると、こどもの興味に沿う形で当初の「ねらい」とは別の部分を伸ばすことがあるのが、幼児期の幼稚園・保育園と考えます。 小学校は、学習指導要領に「これを身に着ける」と目標が定められているので、それを身に着けさせるために、先生はこどもの興味・関心を引き出すよう工夫しながら授業を行っているが、最終的には要領に定める目標に行きつかなければなりません。場合によっては、接続期は興味・関心を持たせるよう工夫しても、目標に行きつかないことも考えられるので、必ずしもこの方向でなくても良いのではとも思います。 座 長 もちろん、折り合いも必要ですね。 吉澤教育長 どこまで小学校の授業で、幼児期の学びを受けて、実施できるか。それぞれの違いを理解した上で、話し合いをしていただくイメージでしょうか。 座 長 それも大事ですね。そうすることによって、こども自身に考える力が付いていきます。興味・関心のある出来事を通じて、どうしてこうなるのか？ということ、こども同士で相談したり、こどもと教師で話しながら作り上げていく。 多少時間がかかると思います。 吉澤教育長 私自身は中学校の教員でしたが、いかに「学ばせたい
--	---

	こと」をこどもが「学びたいこと」に変えていくかということが、導入の部分で非常に気を遣う部分であって、やはり学ぶ目標を、自分達がやりたいと思わせるように力を使うわけですが、幼児期から学んできたことをいかに引き継いでいけるか、ということですね。
座 長	そのようなことを講師の先生にレクチャーしていただきながら、互いになるほど、と納得できるような研修会にしていきたいと考えています。
吉澤教育長	それぞれ、やり方の違いをまず理解して、研究協議が出来れば良いと思います。
座 長	幼児教育は、遊びからの学びです。遊びと、教科の違いを理解し合う。ただ、教科においても遊びの要素を入れないわけではないでしょう。昨日、南中学校の英語の授業の様子を聞き、すごく楽しそうだったとのことでした。教育とは楽しさです。知らなかった知識を知る楽しさ、出来なかったことが楽しく伸びる、これが能力の伸長です。そういう楽しさに繋がるような授業の展開を工夫していく必要があるのではないかと思います。 我々が受けてきたような、教え込まれる教育では、興味・関心は生まれないのではということを考える必要があると思います。
中村氏	資料中の、共通の視点の3つ目、「主体的・対話的で深い学び」とありますが、これは学習指導要領においてもメインのテーマになっていると思います。 小学校・中学校でもこれが必要であるということです。ですから、学習の形態も少しずつ変わってきて、主体的・対話的学びの授業を進めていくということになっていると思いますので、我々もそれを理解したい。小学校ではこうしている、といったことを教えていただきたいです。幼稚園・保育園は遊びが主体ですから、遊びの中でも主体的・対話的ということを少し意識していかなければならないかと、先生の指導をいただいて感じました。 主体的・対話的な学びを現在進めていると思いますが、

	どういうふうに進めているのかを、こちらにも情報提供いただけるとありがたいです。 小学1年生でもこれを進めています、ということであれば、幼稚園としても意識しながら遊びを考えていかなければと考えています。
座 長	遊びというのは非常に奥が深く、私はこどもと対話を重ねながら、それらの対話の一つを取り上げて、どういうイメージでそう考えたのかと必ず問いかけています。 ある幼稚園の先生の報告例ですが、ある日、園のこどもが縄文式の家を造りたいと言ってきたそうです。その先生は、考えた末に段ボールで造ってみせたところ、そのこどもは、縄文時代に段ボールなんて無い、と言ったそうです。そういった知識をどこかで取り込んでいるのだと思います。その子は遊びとして、何とか実現してみたいと、先生に相談してみたのでしょう。そういったことが、考えることに繋がっていきます。こういうことを、こどもから引き出してあげれば、寄り添う保育の実践にも繋がると思います。 これからは、協議会などでご自身の実践例を含めて話し合えれば良いですし、吉澤教育長や中村先生が仰ったとおり、興味・関心の部分についても話し合えれば良いと思います。
竹内氏	教育に対して非常に深い部分をお話しされていて、幼児教育の本質であると思いますし、とても良いと思います。 が、懇談会の際に、保育園・幼稚園の先生方は端的で、大きな視点で幼児教育の本質を考えるよりも、一つ一つのポイントを繋ぐと言いますか、給食は時間内に食べなければいけないのか、字を書けるようにならなければいけないのかなど、目先のことだけの話し合いになってしまうことがよくあります。座長を務めていても、現場の保育者や関係者に、峯先生や吉澤教育長が仰ったことが浸透していかないと、いつも同じような話の繰り返しになってしまい、深く話し合って学び合う場にならないと、司会進行をしながら感じています。

	小佐野氏 前回の三者連絡会の反省事項として、幼稚園・保育園・認定こども園それぞれ独自の教育・保育を実践している中で、幼稚園教育要領と保育指針がきちんと固められているにも関わらず、独自の部分・特色が出ています。 その中で、就学に向けてというところを、誤解と申しますか、竹内先生が仰ったように、給食を20分以内に食べなければいけないのか、と聞いてしまう保育者は、やはりそこに気持ちが行ってしまう、ひいては、園長級の先生で、自分の園でそういった指導をしてしまうことに繋がっていくことを考えると、やはりこのような研修会には、小学校の先生方に参加していただきたいですし、幼稚園・保育園・認定こども園の沢山の先生方にも、現実の小学1年生の授業がどのように行われているかを見ていただくきっかけになると思います。 また、前回も意見がありましたが、管理職が研修会に参加することで、園に持ち帰って実践することに繋ぎやすいとの指摘もありましたので、管理する立場にある保育者も学んだ方が良くと思います。 座 長 何十年も様々な機会に携わってきましたが、お二人のような意見が毎年のように出ます。 給食の件ですとか、そういうことは止めましょう、と言いたいですね。学校には学校の都合があり、教育編成の中で決まっていることですので、そう簡単に変えられるものではないですから。小学校教育にも事情があって、出来る部分と出来ない部分があります。それを理解し合うことが大事で、年長組の3学期になったら給食を20分で食べられるように訓練しなければとか、小学校生活の準備教育だけに視点を置いた教育になっては、本質の部分がおざなりになってしまう。その本質の部分を皆で出し合いましょうということです。 竹内氏 何のための会なのか、何を理解するのか。給食を食べ切る時間ではなく、本質の部分で、幼児教育と小学校教育にどんな違いがあって、そこをスムーズに接続するための話し合いが出来れば良いのですが。
--	---

	座 長 幼稚園教育の場でも、園で字は教えないが、興味・関心のあるこどもは、自分なりにお友達とお手紙交換などをして、自然と字を覚えていく。これが、興味・関心です。自然と覚えて、お友達とコミュニケーションをとれる。これが、コミュニケーション能力に繋がっていく。 結果、字も書ける、お友達とコミュニケーションがとれるようになる。これが遊びです、ということを理解していただきたい。こういったことを、お互いに出し合って話し合う研修会にしていきたいと思います。 成田副主幹 先ほど、幼稚園・保育園の先生方から、歩み寄りと言いますか、このように小学校に接続していきましようとのお話を受けて、小学校でも幼稚園・保育園からの接続に当たり、どのようにすればより接続しやすいのかということ、小学校の教員も考えていかなければならない大事な部分です。吉澤教育長からもお話がありましたとおり、カリキュラムがコンピテンシー・ベースになってきているものの、やはり教科書というものが根強くありまして、教科から外れることはなかなか難しいですが、例えば1年生を見ていると、目の前で起こった現象が、国語だ、生活だ、算数だといったことは全くありません。どうしても教科書があると、小学校の教員は「单元」というまとまりでよく話をしており、学習内容が配当されていて、いわば「コース」のようなイメージで捉えがちですが、少し大きな枠として捉えてみると、例えば1年生の生活科で「春を見つけよう」という单元ですと、植物や昆虫を見つけて採集してみる、鳥の鳴き声が聴こえるなど、様々なジャンルが沢山あり、その後の音楽の時間では、タンポポの綿毛に関する曲があると、実際に綿毛とどうリンクしているのか、そういったことを、教科ではあるものの、例えば国語に派生するとか、興味・関心が繋がるように設定するのも、教員としては持つておくべき大切なファクターであると思います。こういったことも小学校の先生に共有していったら、1年生に接続出来ることがもっと沢山ありますよと紹介していくのも
--	--

